

5 教育普及

(1) 通年講座・教室

ア 考古学専門講座

考古学のバイブル、濱田耕作『通論考古学』を学び、原点に立ち返って考古学という学問を見つめながら、現地踏査も取り入れた通年講座。

一般成人を対象に計8回実施した。

| 日付 | 内 容 | 参加者 |
|-------|---------------------|-----|
| 5.29 | 第1編 序論 | 8名 |
| 7.31 | 第2編 資料 | 8名 |
| 9.26 | 第3編 調査 | 8名 |
| 10.30 | 柿原地区現地踏査 | 7名 |
| 11.28 | 第4編 研究(前半) | 8名 |
| 12. 3 | 古町遺跡13次現地踏査 | 5名 |
| 12.18 | 特論「原史学序論解題」 外部講師 | 9名 |
| 1.16 | 立田山千塚現地踏査 | 5名 |
| 2.27 | 第4編 研究(後半) | 中止 |
| 3.26 | 第5編 後論 | 中止 |



立田山南麓古墳 現地踏査

イ 民俗学講座

リニューアルした常設展示の内容解説等を通して、熊本の民俗文化に興味・関心をもってもらうことを目的とした通年講座。

一般成人を対象に計10回実施した。

| 日付 | 内 容 | 参加者 |
|------|----------|-----|
| 5.14 | 熊本の祭りと民俗 | 46名 |
| 6.11 | 民俗学概論 | 40名 |
| 7. 9 | 清正公信仰 | 38名 |

| | | |
|-------|---------------------------|-----|
| 8.20 | 雨乞い太鼓が語る地域の歴史 | 29名 |
| 9.10 | 熊本の祭りにおける造り物の 広がりとその起源 | 36名 |
| 10. 8 | 都市と盛り場の民俗 | 35名 |
| 11.12 | 肥後鋤と肥後犁 | 37名 |
| 12.10 | 火の国祭りとおてもやん | 34名 |
| 1.21 | 藤崎宮と都市祭礼 | 32名 |
| 2.11 | 熊本城の民俗学 | 28名 |
| 3.10 | 宮本常一と熊本 | 中止 |



熊本の祭りと民俗

ウ 地質学講座

化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や熊本の大地に関する通年講座。

小学5年生から一般成人を対象に隔月で計6回実施した。

| 日付 | 内 容 | 参加者 |
|-------|--------------|-----|
| 4.21 | 熊本の地質概要 | 21名 |
| 6.16 | 岩石とその利用 | 26名 |
| 8.18 | 化石(+石の持ち寄り会) | 20名 |
| 10.20 | 火山 大地の息吹 | 19名 |
| 12.15 | 鉱物 結晶の美 | 20名 |
| 2.16 | 地盤災害と大地の恵み | 7名 |



地盤災害と大地の恵み

エ 動物学講座

野外観察会や室内学習で、身近な動物の生態や形態などについて学ぶ通年講座。

小学4年生以上を対象に計7回実施した。

| 日付 | 内 容 | 参加者 |
|-------|--------------|-----|
| 4.20 | 開講式・概論 | 23名 |
| 5.18 | 野外観察会（雁回山） | 中止 |
| 6.15 | バックヤード・企画展見学 | 23名 |
| 7.28 | 野外観察会（上江津湖） | 15名 |
| 8.24 | 昆虫展見学 | 16名 |
| 9.21 | 野外観察会（立田山） | 中止 |
| 10.19 | 野外観察会（下江津湖） | 中止 |
| 11.30 | 毒の話 | 8名 |
| 12.14 | 野外観察会（下江津湖） | 14名 |
| 1.25 | イノシシとネズミの話 | 13名 |
| 2.22 | 動植物園見学 | 中止 |
| 3.21 | 生物多様性について | 中止 |



野外観察会（金峰山）

オ 植物学講座

野外観察会や室内学習を通して、身近な植物に親しみ、興味・関心をもってもらうことを目的とした通年講座。

一般成人を対象に8回実施した。

| 日付 | 内 容 | 参加者 |
|-------|-------------|-----|
| 5.23 | 水草のなかま | 26名 |
| 6.27 | くらしの中の植物形態学 | 19名 |
| 7.25 | 野外観察会（坪井緑地） | 18名 |
| 8.22 | 植物の分類と標本 | 16名 |
| 9.19 | 野外観察会（金峰山） | 10名 |
| 10.24 | 光合成、植物の防御機構 | 19名 |
| 11.28 | 花の色素と遺伝子 | 19名 |
| 12.26 | 種子散布、冬芽 | 19名 |

カ 子ども科学・ものづくり教室

(ア) 実施の経緯

熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史資料などの保存・継承と、それらの価値や魅力を発信する拠点としての役割を果たしてきた。

これに加え、現在は多様化する人々のニーズに応じた学習活動の支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められるようになってきた。

そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、平成11年度より「子ども科学・ものづくり教室」を開催している。

(イ) 令和元年度（2019年度）の取組

平成30年（2018年）12月1日のリニューアルオープン以来、当館に新設された「実験・工作室」と「講堂」を主会場として教室を行っている。

令和元年度（2019年度）も、当館及び南区城南町にある姉妹館：熊本市塚原歴史民俗資料館（以下、「塚原歴史民俗資料館」）にて全28回の教室を開催し、参加者総数は2000人を超えた（新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う措置で2月22日以降のイベント等を中止し、2月29日からは臨時休館となったため、上記の開催回数・参加者総数は2月21日時点までの実績）。

内容は、理工分野に関する科学実験や科学工作が中心であるが、考古・植物・地質分野に関する内容も担当学芸員に依頼して数回ずつ行った。

例年と同じく、技術的に細やかな支援が必要となる教室においては任意の教育団体である熊本市ものづくりサークル会員に実技補助や運営面での協力をお願いした。また、リニューアル工事期間中は休止していた高等専門学校等との共催イベントも再開し、教室内容の充実を図った。

(ウ) 実施内容

◎ アンモナイトのレプリカを作ろう

地質担当学芸員の指導のもと、地質年代や化石のでき方、化石から得られる情報などについて学ぶもの。アンモナイトの型枠に石膏を流し込んで固めた後、型枠から外して墨を塗って仕上げる。作業の合い間にアンモナイトに関するプレゼンテーション解説や、水を張った水槽にオウムガイの殻を浮かべる演示なども行って参加者の興味・関心を高めた。

日 時 4月13日（土）

13時30分～15時

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 南部 靖幸（地質）

山口 均（理工）

参加者 49名



アンモナイトのレプリカ

◎ ミョウバンの結晶を作ろう

10連休となった大型ゴールデンウィーク期間中のイベントとして行った。溶解度を利用した物質の再結晶を体験できる内容で、フィルムケース大の容器（プッシュバイアル）に60℃程度の飽和ミョウバン水溶液を注ぎ、容器の中央にミョウバンの種結晶を吊るして放置する。保管場所は発泡スチロール箱の中で、ゆっくりと冷却を待つ。

参加者には翌日以降、都合のよい時間帯に取りに来よう伝えて一旦解散。横幅が5mm程度だった種結晶が、2cm以上になったものもあり、美しい結晶を大満足の様子で見つめる姿が見られた。

日 時 4月28日(日)

(1)13時～ (2)14時～

(3)15時～ (4)16時～

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(理工)

参加者 96名



ミョウバンの結晶作り

◎ CDホバークラフトを作ろう

この教室もゴールデンウィーク期間中のイベントとして行った。小学校3年生の理科で、「風やゴムのはたらき」を学ぶが、その内容を「ものづくり」を通して改めて理解するのに役立っている。「CDホバークラフト」と「紙バック(Back!)」という2種類の科学工作を取り入れ、前者の製作中には空気を吹き出しながら接地面の摩擦力を抑えて進む様子から「慣性の法則」にまで話題を広げることができた。後者はゴムの弾性を利用した不思議で楽しい動きをするおもちゃで、身近な物(ゴムやおもり)の性質を遊びながら実感できる。

日 時 5月5日(日・祝)

(1)13時～ (2)14時～

(3)15時～ (4)16時～

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(理工)

参加者 128名



CDホバークラフト

◎ 巴形銅器のレプリカを作ろう

弥生時代の社会や巴形銅器の意義と役割、合金の種類や性質などについて学ぶ教室。南区城南町にある構口(かまえぐち)遺跡より出土した弥生時代の青銅器: 巴形銅器の縮小鑄型の中に融かした低融点合金を流し込み、レプリカ作りを行った。

製作活動の前には、常設展示室で古代の石器や土器なども見学し、時代背景について考えた。

日 時 5月25日(土)

13時30分～15時

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 清田 純一(考古)

山口 均(理工)

参加者 10名



巴形銅器のレプリカ

◎ おもしろ実験・工作に挑戦!

光の全反射やベルヌーイの定理、摩擦の力と角運動量の保存に関連する実験・工作、振動を回転に変える「ガリガリとんぼ」の体験コーナーなど、

4ブースを開設した。

幼児から大人までを対象とした自由参加型教室の一つで、簡単な製作物が秘めている不思議で身近な科学を親子で楽しんでもらった。

日 時 ① 6月15日(土)
② 7月27日(土)
13時30分～15時30分

場 所 ① 塚原歴史民俗資料館
② 博物館「講堂」「実験・工作室」

指導者 山口 均(理工)

協力者 ものづくりサークル会員

① 5名 ② 8名

参加者 ① 79名 ② 153名

◎ 箱の中に虹を作ろう

自然光の構成やスリットを介した分光の仕組みについて学ぶもの。

分光シートは1辺2cmあたり：5000本の筋が縦横に刻まれた仕様のものを用いた。分光シートを目に近づけ、自作のスリットを蛍光灯などの光源に向けると(太陽を直接見てはいけない等の注意点を伝える)、切り抜いたスリットの形がそのまま美しい虹色のスペクトルとなる。

日 時 ① 6月22日(土)
② 11月9日(土)
13時30分～15時30分

場 所 ① 博物館「実験・工作室」
② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均(理工)

参加者 ① 46名 ② 8名



虹の箱

◎ 水中UFOキャッチャーを作ろう

浮力について体験的に学ぶことのできる楽しい内容。水を満たした炭酸系のペットボトル(500mL)に、水と空気の量を調節した金属フック付きの浮沈子(魚型たれビン)を入れる。ふたを締めてペットボトルに力を加えると浮沈子の容積が小さくなるため浮力も小さくなって沈む。

日 時 ① 7月13日(土)
② 8月16日(金)
13時30分～15時

場 所 ① 塚原歴史民俗資料館
② 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(理工)

参加者 ① 27名 ② 46名



水中UFOキャッチャー

◎ 宙返りバードを作ろう

翼の形や傾きが生み出す「揚力」について体験的に学ぶことができる教室。壁や畳などの断熱材として使われているスタイロフォームを電熱線カッターで1mm程度の厚さにスライスしておく。それを定型に切り取って鳥の形に組み立て、頭部に厚紙のおもりを接着すると完成。

日 時 7月14日(日)
13時30分～15時

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(理工)

参加者 41名

◎ 液体窒素実験ショー

地質担当学芸員による液体窒素実験ショーは、温度による物質の三態変化と体積変化を利用した驚きの実験・現象の数々を披露するもの。

バラバラになる「薔薇」、弾まないゴムボール、液体窒素燃料ロケット、フライパンの中で踊る液体窒素（ライデンフロスト現象）など、超低温の液体窒素が織り成す不思議な世界をお見せした。

- 日 時 ① 8月3日（土）
② 同 24日（土）
(1) 13時15分～
(2) 14時30分～
(3) 15時45分～(各回20分)

- 場 所 ① 博物館「講堂」
② 塚原歴史民俗資料館

指導者 南部 靖幸（地質）
山口 均（理工）

参加者 ① 169名 ② 50名

◎ コイルモーターを作ろう

磁界と電流（電荷）の相互作用によって生じる力（フレミングの左手の法則）について学ぶもの。

コイルの形を円形に保持したり、エナメル線の巻き始め・巻き終わりを紙やすりで剥がしたりする作業が難しいため、製作補助具を工夫して技術面での支援を行っている。

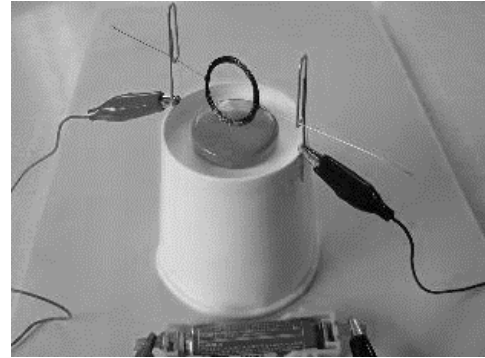
モーターが回転を始めた瞬間の、驚きと喜びに満ちた表情が印象的。

- 日 時 ① 8月10日（土）
② 9月28日（土）
13時30分～15時

- 場 所 ① 塚原歴史民俗資料館
② 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（理工）

参加者 ① 22名 ② 31名



コイルモーター

◎ 大気圧と真空の実験ショー

「空気」と「真空」をテーマに、気圧差によって生じる様々な現象を展開する定番のショー。

お湯と容器を使った噴水実験や空き缶つぶし、真空ポンプを使った「膨らむ風船・水の減圧沸騰」などを披露した。普段は、その存在すら意識することの少ない「空気」ではあるが、ショーが進むにつれて空気の意外なパワーに気づいてもらえたように思う。

- 日 時 8月11日（日）
(1) 13時15分～
(2) 14時30分～
(3) 15時45分～(各回25分)

場 所 博物館「講堂」
指導者 山口 均（理工）
参加者 155名

◎ 夏の体験イベント：サイエンスフェスタ2019

熊本高等専門学校：熊本キャンパス・八代キャンパスとの共催事業で、2012年以来、7年ぶりに再開することができた。「風船割りロボコンミニチュア操縦体験」「ミニミニ科学館」「3Dペン体験」「電子ピアノ作り」など、定例の科学教室では体験が難しいブースを複数出展してもらった。

各ブースとも大盛況で、「次年度も必ず参加したい」という感想が多く寄せられた。

- 日 時 8月25日（日）
13時～16時

場 所 博物館「講堂」「実験・工作室」
指導者 熊本高等専門学校 熊本・八代キャンパス職員及び学生 24名
参加者 406名



電子ピアノを作って鳴らそう

◎ 紙パックカメラを作ろう

レンズの働き、光の直進や屈折、虚像や実像について学ぶ科学工作で、カメラと目の仕組みの共通点についてもふれた。

1 リットル紙パックと凸レンズを組み合わせて簡易カメラを製作し、感熱紙を用いた写真撮影も行った。スクリーン上に結ばれた像が上下左右、反転する現象も確認することができた。

日 時 ① 8月10日(土)
② 9月28日(土)
13時30分～15時

場 所 博物館「実験・工作室」「屋外」
指導者 山口 均(理工)
参加者 ① 42名 ② 12名



自作のカメラで撮影体験

◎ 葉脈標本でしおりを作ろう

植物体の葉脈の種類や働きについて学ぶ内容。
用いるヒイラギとヒイラギモクセイの葉は、事前に強アルカリ性水溶液で20分間程度煮込み、冷却後にしっかりと水洗いして食酢で中和しておく。
子どもたちは歯ブラシを使い、軽く上から叩く動作を繰り返して葉から葉肉を剥ぎ落とし、水洗い・水きり・風乾後に葉脈をラミネート加工して「しおり」に仕立てた。

日 時 10月26日(土)
13時30分～14時30分

場 所 博物館「実験・工作室」
指導者 山口 瑞貴(植物)
山口 均(理工)
参加者 27名

◎ くるくる回るシャボン玉を作ろう

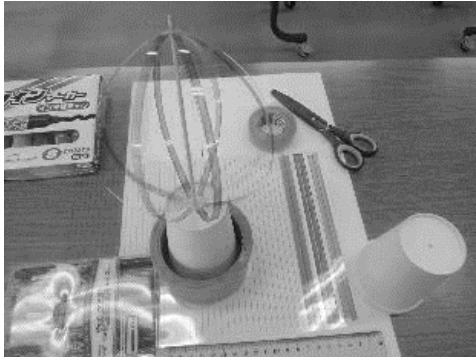
光(と色)の三原色、残像の重なり、遠心力の働きなどについて学ぶ科学工作。

光の三原色をモデル的に表した赤・緑・青色の着色シート(OHPシート:6mm幅)と色を塗らない無色透明のシートを各2枚ずつ、合計8枚をボール状に組み立て、中心に通した竹軸をゆっくり回すと三色の残像が重なり合って本物のシャボン玉のように見える。

後半は、光の三原色以外の色もシートに塗り、オリジナルシャボン玉作りにも挑戦。

日 時 11月23日(土・祝)
13時30分～15時

場 所 博物館「実験・工作室」
指導者 山口 均(理工)
参加者 28名



くるくる回すと…

◎ 静電気実験ショー

摩擦電気とも呼ばれる静電気の斥力や引力等を利用した実験ショー。ペンシルバルーンをティッシュで擦ってマイナスに帯電させ、横たえた空き缶に近づけて動かす「空き缶のお散歩」に始まり、バンデグラフを使った火花放電や蛍光灯の点灯まで、複数の実験や現象を披露した。

日 時 12月7日(土)

(1)13時30分～

(2)14時30分～

(3)15時30分～(各回25分)

場 所 博物館「講堂」

指導者 山口 均(理工)

参加者 97名

◎ 電波教室&クリスマスイルミネーション作り

この教室も2012年以来、7年ぶりに再開したもので、身近にある様々な電波の特性や送受信の仕組み等について学んだあと、電子工作としてクリスマスイルミネーション作りを行った。

製作後は部屋を暗くして、完成したイルミネーションがゆっくりと色を変えていく様子を参加者みんなで楽しむことができた。

日 時 12月14日(土)

13時30分～15時30分

場 所 博物館「講堂」「実験・工作室」

指導者 日本アマチュア無線連盟熊本県支部員及び、熊本県電波適正利用推進員協議会員 全7名

参加者 40名



イルミネーション作り

◎ 活性炭電池を作ろう

電池の仕組みと働きについて学ぶ内容。コイン電池や木炭電池などを通して電池は身近な材料でも簡単に作れることを実演して見せた。また、基本的な構造は2種類の金属と電解溶液の組み合わせであることやノーベル化学賞で話題となったリチウムイオン電池についても少しふれた。

作り方を説明した後で一人2個ずつ活性炭電池を作り、直列つなぎにするとパワーアップすることを電子オルゴールの音量やモーターの回転速度の違いで確かめることができた。

日 時 ① 1月18日(土)

② 2月8日(土)

13時30分～15時

場 所 ① 博物館「実験・工作室」

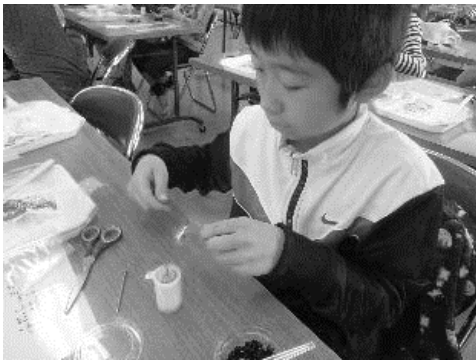
② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均(理工)

協力者 ものづくりサークル会員

① 4名 ② 1名

参加者 ① 30名 ② 19名



活性炭電池を作ろう

◎ 静電気グッズを作って遊ぼう

摩擦によってプラス・マイナスに帯電した物質間に働く斥力と引力を体感的に学ぶための科学工作。ビニル紐（PP紐）とペンシルバルーン双方にマイナス電荷を帯びさせ、PP紐を宙に浮かせる「電気くらげ」や「静電気ベル」の製作を行った。

電気くらげでは、ビニル紐をプラスに帯電させて風船と引き合う現象も披露し、摩擦する物の違いによっては帯びる電荷がプラスになったりマイナスになったりすることを示した。

日 時 2月1日（土）

13時30分～14時30分

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（理工）

参加者 68名

◎ 紫キャベツ紙でカラフルお絵かき

紫（レッド）キャベツの色素（アントシアニン）を煮出し、ろ紙に染み込ませて紫色の台紙を作った。身近な果汁や水で薄めた液体洗剤等を絵具の代わりに、綿棒を筆の代わりにして作ったキャベツ紙の上にカラフルなお絵かきをした。

リトマス紙ではなく、自作の紫キャベツ紙でも水溶液の性質（酸性・中性・アルカリ性）を調べることができ、多くの参加者が「家でも作りたい。キャベツ以外の物でも作ってみたい。」という感想を口にしていた。

日 時 2月11日（火・祝）

(1)13時30分～14時30分

(2)15時～16時

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（理工）

協力者 ものづくりサークル会員：2名

参加者 125名

◎ 紙バック（Back!）を作ろう

ねじれたゴムが元に戻ろうとする性質（弾性）について学ぶことができる簡単な科学工作を行った。前述の「静電気グッズ」「紫キャベツ紙」及び、この「紙バック作り」の3教室は、熊本博物館が今回初めて取り組んだ「誕生月間（2月）イベント」の中で実施した。多くの来場者に楽しんでもらうことができ、来年度以降も内容の充実を図っていきたい。

日 時 2月15日（土）

(1)13時30分～14時30分

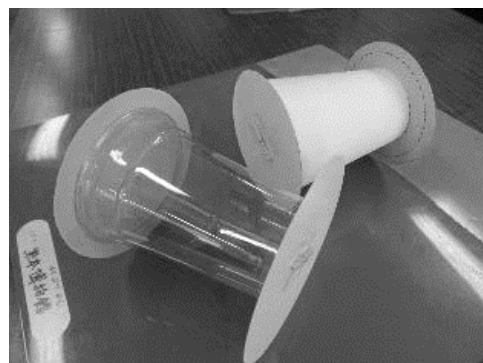
(2)15時～16時

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（理工）

協力者 ものづくりサークル会員：2名

参加者 65名



手元に戻ってくる仕組みは…

(2) 学校教育支援事業

「ゲストティーチャー派遣授業」

「館内学習支援活動」

ア 実施の経緯

社会教育・生涯学習の拠点施設である博物館と学校との連携（博学連携）については、その必要性・重要性が以前にも増して高まってきた。そのような状況をふまえ、これまでに行ってきた様々な教育普及活動の中で学校教育に関わる部分を強化すべく、教材として価値のある収蔵資料と学芸員の知識や技能を授業の中で有効活用するため「ゲストティーチャー派遣授業」を行っている。

また、館内展示物や収蔵資料を学習活動に活かすため、平成 28 年度には市内の小中学校の教職員（全：8 名）を研究協力員に委嘱し、学芸員との協働による「館内学習支援プログラム」の「原案作り」に着手。平成 29 年度は、その原案に編集・校正作業を加えて冊子化し、年度内に熊本市内：全小中学校への配布を済ませた。そして、平成 30 年 12 月 1 日のリニューアルオープン以降、平成 31 年（2019 年）1 月より館内学習支援活動も試行的に実践を始めた。

令和元年度（2019 年度）は、「ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）」と「館内学習支援活動（お迎え事業）」の両輪が本格稼働する年となった。今後も学校教育支援と博学連携の更なる充実を目指し、事業改善に努めていきたい。

イ 令和元年度（2019 年度）の取組

平成 26 年度から翌年度にかけては「学校教育支援事業モデル校 2 校（小学校）」に絞って派遣授業を行ったが、平成 28 年度からは（熊本地震後の 2 学期より）主な対象校を市内全域の小中学校（92 校）に拡げ、学校側からの要請に応じて可能な範囲で事業を展開することにした。

派遣授業（お出かけ事業）の内容については、平成 27 年度中に「派遣授業：学習プログラム集

2016」を作成し、市内全ての小中学校（約 140 校）に配布して周知を図った。そして、前述の通り、館内学習支援活動（お迎え事業）については、平成 29 年度末に「館内学習プログラム集（全 50 題材：120 頁）」を作成・配布し、リニューアルオープン後の実施に備えた。

それぞれのプログラム集及び、活用のための要請依頼書は、当館 HP にも掲載している。

平成 30 年度のリニューアルオープン前は、館内での展示作業及びその他の館内業務を優先せざるを得なかったため、「派遣授業」は年間を通して延べ 5 校：延べ 15 時間の実施にとどまった。「館内学習支援活動」については市内小学校の 3 学期始業時期に合わせて事業をスタートさせ、3 カ月間で全 4 校：延べ 6 プログラムの要請があった。

令和元年度（2019 年度）の「派遣授業」は延べ 9 校：延べ 22 時間の実績で、「館内学習」は市内の小学校だけでなく市外からの要請もあり全 16 校：延べ 24 プログラムの実施となった。館内学習支援活動においては、プログラム集で紹介している学習シートだけでなく、冊子内には掲載されていない写真資料や実物資料も交えながら担当学芸員が興味深い解説を行うため、プログラムを体験した子どもたちは意欲的に学習に取り組み、その後の館内見学も充実していたように感じた。

更に、今年度は新規に「熊本博物館⇄スクールシャトルバス事業」を立ち上げ、当館から比較的遠方に位置する小学校 12 校を無料で招待（当館予算でバスを賃借）し、その際にも「館内学習」を行った。この事業については招待校の引率者・参加児童へのアンケートを基に内容の改善を図り、令和 2 年度（2020 年度）も継続することにした。ちなみに、「また来年もシャトルバス事業を利用したい・博物館で学習したい」と回答した教職員・児童の割合は、共に 97%を超えていた。

ウ ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

| 学 校 | 学年 | 教科等 | タイトル | 実施日 | 担当者(分野) | 児童数 | 時間数 |
|------|----|-----------|----------------|-------|---------------|------|-----|
| 画図小 | 2年 | 生活科 | 学校周辺の生きもの観察 | 9月12日 | 清水 稔 (動物) | 15名 | 2時間 |
| 日吉東小 | 3年 | 総合※ | 地域に生息する水棲生物 | 11月7日 | 清水 稔 (動物) | 80名 | 1時間 |
| 西原小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具を調べよう | 12月2日 | 福西 大輔 (民俗) | 100名 | 3時間 |
| 山東小 | 全 | 生活科 総合 | 身近な生きもの（講話） | 12月3日 | 清水 稔 (動物) | 184名 | 1時間 |
| 西原小 | 3年 | 理科 | 豆電球に明かりをつける | 1月9日 | 山口 均 (理工) | 100名 | 3時間 |
| 山ノ内小 | 5年 | 理科 | 電磁石の性質を調べよう | 2月3日 | 山口 均 (理工) | 110名 | 4時間 |
| 一新小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具を調べよう | 2月10日 | 福西 大輔 (民俗) | 70名 | 2時間 |
| 田迎西小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具を調べよう | 2月14日 | 福西 大輔 (民俗) | 115名 | 4時間 |
| 長嶺小 | 6年 | 総合 | 学芸員の仕事（キャリア教育） | 2月21日 | 清水 稔 (動物) | 186名 | 2時間 |

※ 総合的な学習の時間



一新小学校3年生 社会科
「昔の道具を調べよう」



山ノ内小学校5年生 理科
「電磁石の性質～コイルモーター作り～」

エ 館内学習支援活動（お迎え事業）

| 学 校 | 学年 | 教科等 | タイトル | 実施日 | 時 間 | 担当者 (分野) | 児童数 |
|--------------|----------|-----------|----------------------------|--------|-----|---------------|------|
| 豊田小 | 4年 | 理科 | クスノキのひみつを探ろう | 6月14日 | 30分 | 山口 瑞貴 (植物) | 43名 |
| 田原小 | 4年 | 理科 | クスノキのひみつを探ろう | 7月4日 | 30分 | 山口 瑞貴 (植物) | 16名 |
| 桜井小 | 3年 | 理科 | こん虫の体のつくり | 7月10日 | 30分 | 清水 稔 (動物) | 48名 |
| 杉上小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 7月10日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 52名 |
| 花房小 (菊池市) | 3年 4年 | 理科 | こん虫の体のつくり | 10月4日 | 30分 | 清水 稔 (動物) | 26名 |
| 励徳小 (美里町) | 3年 4年 | 理科 | クスノキのひみつを探ろう | 10月17日 | 30分 | 山口 瑞貴 (植物) | 16名 |
| 高木小 (御船町) | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 11月1日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 24名 |
| 田底小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 11月20日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 20名 |
| 山東小 山本小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 11月27日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 53名 |
| 山東小 山本小 | 4年 | 理科 | ものの温度と体積(熱気球) | 11月27日 | 30分 | 山口 均 (理工) | 46名 |
| 花園 家庭教育 | 一般 | 総合 | 博物館の役割 | 12月26日 | 30分 | 山口 均 (理工) | 30名 |
| 熊大付属 特支学校 | 高等部 | 理科 | こん虫の体のつくり | 1月10日 | 30分 | 清水 稔 (動物) | 30名 |
| 植木小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 1月17日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 71名 |
| 富合小 | 3年 | 社会科 理科 | 昔の道具と人々のちえ こん虫の体のつくり | 1月22日 | 30分 | 福西 大輔 清水 稔 | 108名 |
| 菱形小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 1月23日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 34名 |
| 大江小 | 3年 | 社会科 理科 | 昔の道具と人々のちえ 豆電球に明かりをつけよう | 1月24日 | 30分 | 福西 大輔 山口 均 | 114名 |
| 吉松小 | 3年 | 社会科 | 昔の道具と人々のちえ | 2月7日 | 30分 | 福西 大輔 (民俗) | 33名 |



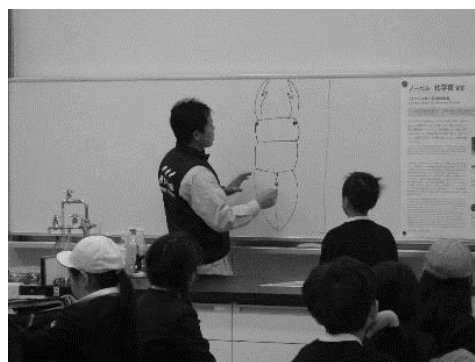
館内学習（植物）
「クスノキのひみつを探ろう」



館内学習後の「展示物見学の様子」



「プラネタリウム前室にて」
これからプラネタリウム室へGo！



館内学習（動物）
「こん虫の体のつくり」

オ 総合的な学習の時間（再掲）

| 学 校 | 学年 | タイトル | 実施日 | 担当者（分野） | 児童数 | 時間数 |
|------|----|----------------|--------|--------------|------|-----|
| 日吉東小 | 3年 | 地域に生息する水棲生物 | 11月 7日 | 清水 稔 （動物） | 80名 | 1時間 |
| 山東小 | 全 | 身近な生きもの（講話） | 12月 3日 | 清水 稔 （動物） | 184名 | 1時間 |
| 長嶺小 | 6年 | 学芸員の仕事（キャリア教育） | 2月 21日 | 清水 稔 （動物） | 186名 | 2時間 |

(3) 講師派遣

| タイトル・内容 | 期 日 | 時 間 | 場 所 | 担 当 (分野) | 人数 | 備 考 (主催等) |
|------------------------------|---------------------|------------------|--------------------|---------------|-------|--------------------------------------|
| 熊商有志の会 勉強会 「城下町の食と食」 | 4月18日(木) | 18時～19時 | 三井ガーデンホテル | 福西 大輔 (民俗) | 21名 | 熊商有志の会 |
| 教職員研修「小学校理科実験事故 防止講習会」 | 5月 8日(水) ほか、全3日間 | 14時～16時 | 実験・工作室(館内) | 山口 均 (理工) | 92名 | 熊本市教育委員会指導課 |
| 城西校区9町内子ども会活動 「科学工作を楽しもう」 | 6月 2日(日) | 10時～12時 | 千原公民館 (城西小校区) | 山口 均 (理工) | 35名 | 城西校区9町内子ども会 |
| ミュージアム・キッズ in 古墳館 | 6月23日(日) | 10時～15時 | 熊本県立装飾古墳館 | 山口 均 (理工) | 1042名 | 熊本県立装飾古墳館 |
| 元気保育園活動 「かんたんなこうさくをしよう」 | 7月12日(金) | 9時30分～ 10時30分 | 実験・工作室(館内) | 山口 均 (理工) | 23名 | 館内にて実施 |
| わくわくえぶっ子塾 「江津湖で星を見てみよう」 | 8月 3日(土) | 19時30分～ 21時 | 水前寺江津湖公園 (広木地区) | 野村 美月 (天文) | 30名 | 水前寺江津湖公園 |
| 「教員のための博物館の日」 | 8月 8日(木) | 9時～15時 | 八代市立博物館 | 山口 均 (理工) | 15名 | 熊本県博物館ネットワークセンター、八代市立博物館(未来の森ミュージアム) |
| 暮らしを支えた民藝展関連講演 会「郷土玩具と妖怪」 | 8月11日(日) | 10時～ 11時30分 | くまもと工芸会館 | 福西 大輔 (民俗) | 12名 | くまもと工芸会館 |
| 親子でチャレンジ 「水の中の生き物に親しもう」 | 8月12日(月) | 10時～12時 | 北部公民館西里分館 | 清水 稔 (動物) | 33名 | 北部公民館西里分館 |
| わくわくえぶっ子塾 「江津湖の昆虫探検隊」 | 9月 7日(土) | 10時～12時 | 水前寺江津湖公園 (広木地区) | 清水 稔 (動物) | 30名 | 水前寺江津湖公園 サービスセンター |

| タイトル・内容 | 期 日 | 時 間 | 場 所 | 担 当 (分野) | 人数 | 備 考 (主催等) |
|--|-----------------------|----------------|--------------------|-----------------|-----------|---------------|
| くまもと県民カレッジリレー講座「画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶」 | 10月15日(火) | 14時～15時 | くまもと県民交流センターパレア | 竹原 明理 (美術工芸) | 37名 | 熊本県生涯学習推進センター |
| 阿蘇ふるさとづくり自然塾「天体観測」 | 10月17日(木) 11月7日(木) | 19時～20時 | 国立阿蘇青少年交流の家 | 野村 美月 (天文) | 各回 30名 | 国立阿蘇青少年交流の家 |
| 山東小学校3年生PTA活動 | 10月19日(土) | 13時30分～ 16時 | 山東小学校体育館 | 山口 均 (理工) | 66名 | 山東小学校PTA |
| 子ども文化会館「科学ランド」 | 11月10日(日) | 13時30分～ 16時 | 子ども文化会館 | 山口 均 (理工) | 208名 | 熊本市子ども文化会館 |
| 南部公民館講座「科学工作を楽しもう」 | 11月16日(土) | 10時～ 11時30分 | 南部公民館調理室 | 山口 均 (理工) | 20名 | 南部公民館 |
| 託麻公民館講座「科学工作を楽しもう」 | 11月30日(土) | 14時～16時 | 託麻公民館 (2階ホール) | 山口 均 (理工) | 42名 | 託麻公民館 |
| くまもと県民カレッジ「パレアミュージアム～民俗学者宮本常一が見た昭和の熊本とその課題～」 | 12月3日(火) | 14時～ 15時30分 | くまもと県民交流センターパレア | 福西 大輔 (民俗) | 32名 | 熊本県生涯学習推進センター |
| わくわくえぶっ子塾「江津湖で星を見てみよう」 | 12月21日(土) | 18時～19時 | 水前寺江津湖公園 (広木地区) | 野村 美月 (天文) | 12名 | 水前寺江津湖公園 |
| 城下町勉強会「加藤清正の虎退治伝承とその広がり」 | 1月13日(月・祝) | 18時～ 18時50分 | 炭や | 福西 大輔 (民俗) | 30名 | 一新まちづくりの会 |
| わくわくえぶっ子塾「親子で春の七草を探してみよう」 | 1月18日(土) | 10時～12時 | 水前寺江津湖公園 (広木地区) | 山口 瑞貴 (植物) | 30名 | 水前寺江津湖公園 |

| タイトル・内容 | 期 日 | 時 間 | 場 所 | 担 当 (分野) | 人数 | 備 考 (主催等) |
|--|------------|----------------|-------------------------|---------------|------|------------------------|
| やさしいお星さま教室 「星座早見で見る世界」 | 1月18日(土) | 15時～17時 | 清和高原天文台 | 野村 美月 (天文) | 15名 | 清和高原の星空を活用したまちづくり実行委員会 |
| くまもとキッズ・ミュージアム in 合志 | 1月19日(日) | 10時～16時 | 合志市総合センター (文化会館)ビーブル | 山口 均 (理工) | 338名 | 熊本県博物館ネットワークセンター、各参加館 |
| サイエンスカフェ in 熊本「2020 年は天文現象オリンピック!？」 | 1月25日(土) | 19時30分～ 21時 | くまもと森都心プラザ | 野村 美月 (天文) | 20名 | 九州の星空を守る会 |
| おおづ図書館コズミックカレッジ 「惑星モビールを作ろう」 | 2月 1日(土) | 14時～16時 | 大津市立 おおづ図書館 | 野村 美月 (天文) | 20名 | 大津市立おおづ図書館 |
| やさしいお星さま教室 「望遠鏡づくり」 | 2月11日(火・祝) | 15時～17時 | 清和高原天文台 | 野村 美月 (天文) | 15名 | 清和高原の星空を活用したまちづくり実行委員会 |

(4) 教職員研修

ア 館内学習プログラム解説編

「活用資料の魅力や価値に迫る！(第1回目)」
学校教育支援事業で活用する「館内学習プログラム集」について、そのプログラム内で紹介している館内展示物等の資料の価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに伝えた(座学と館内見学)。

日 時 7月29日(月)

① 9時～12時(人文系解説)

② 13時～16時(自然系解説)

参加者 ① 4名 ② 10名

イ 館内学習プログラム解説編

「活用資料の魅力や価値に迫る！(第2回目)」
※ 内容は第1回目と同様。

日 時 8月19日(月)

① 9時～12時(自然系解説)

② 13時～16時(人文系解説)

参加者 ① 3名 ② 6名

ウ 熊本市小学校理科教育研究会夏季研修

プラネタリウムを活用し、中学校で学ぶ天体学習の内容について紹介したり館内の自然系提示物の解説を行ったりした。

日 時 8月5日(月)

9時～12時

参加者 研究会員(教職員)20名

エ 熊本県立盲学校教職員社会体験研修

教職員研修の一環として行われている異業種体験の機会を提供した(学芸業務体験)。2日間の研修予定が、台風接近による臨時休館により1日のみとなった。

日 時 8月7日(水)

9時～16時

参加者 1名

オ 熊本県立湧心館高校教職員社会体験研修

教職員研修の一環として行われている異業種体験の機会を提供した(学芸業務体験)。

日 時 8月7日(水)～8日(木)

9時～16時

参加者 1名

(5) 博物館実習生の受け入れ

令和元年度は実習生を14名受け入れた。

期 間 8月27日～9月1日

大 学 鶴見大学、福岡大学、立命館大学、
愛知学院大学、京都造形大学

上記大学 各1名、熊本大学9名

内 容

1日目 オリエンテーション、博学連携、
イベント準備

2日目 展示・バックヤード見学、管理事務、
設備概要、植物学芸実習(理)、
歴史学芸実習(文)

3日目 地質学芸実習(理)、考古学芸実習
(文)、美術工芸学芸実習(文)

4日目 動物学芸実習(理)、民俗学芸実習
(文)

5日目 プラネタリウム業務実習、展示製
作実習(グループワーク)

6日目 展示製作実習(グループワーク)、
発表・まとめ

(6) 職場体験・インターンシップ

高校生を対象に、プラネタリウム券売・受付、
来館者案内、学芸業務体験等の機会を提供した。

| | | |
|----------------------|-------------------|----------|
| 7月9日(火) ～11日(木) | 県立湧心館高校 | 2名 |
| 7月30日(火)～ 8月1日(木) | 県立第一高校 | 1名 |
| 8月2日(金) | 県立大津高校 | 2名 |
| 10月16日(水) ～17日(木) | 県立豊学校 熊大附属特支学校 | 1名 1名 |

(7) 大学等からの訪問

学生を対象に、博物館が担う社会的機能(展示、教育・普及、その他)を学ぶ機会を提供した。

ア 熊本大学理学部

理学部共通実験科目の授業の一環として、地質展示を中心に2階展示室の見学。

日 時 5月28日(火)
14時～15時30分

イ 崇城大学

教員養成課程の学生による、プラネタリウムと地質展示を中心とした館内見学。

日 時 6月29日(土)
9時～12時

ウ 東海大学

観光ビジネス実習Aの授業の一環として、常設展示や企画展の館内見学。

日 時 6月29日(土)
9時～10時50分

エ 熊本大学理学部

理学部共通実験科目の授業の一環として、地質展示を中心に2階展示室の見学。

日 時 7月2日(火)
14時～15時30分

オ 熊本大学

博物館実習Iにおける現地実習のため、プラネタリウムと館内の見学。

日 時 8月23日(金)
12時20分～15時

カ 熊本大学教育学部

地学基礎実験の授業の一環として、館内とプラネタリウムを見学。

日 時 10月11日(金)
15時～17時

(8) ホームページコンテンツ

「博物館流 自然観察・科学工作のススメ」

新型コロナウイルス感染症の拡大防止(流行抑制)対策の一環として、人混みを避けながら家庭で手軽に実施できる「自然観察・科学工作」等の方法をホームページで発信し、イベント自粛・休校・休館期間中の学習支援を行った(学習意欲等の維持・向上に寄与する一方策として)。

3月2日(月)より公開開始(随時更新)。